



井上智之 (いのうえ さとし)

1970年生まれA型。某シンクタンクで関西の産業振興に関する調査をしていたが、縁あって大阪都市経済調査会へ。俯瞰的な分析を徹底するクールさと「いつかは独立したい」というアツイ野心を併せ持つが、泥酔すると昭和歌謡で突然踊り出す奇怪な一面も。

その7 ▶ 港区 物流拠点から集客観光・文化産業の拠点へ ～生まれ変わる倉庫街～

今回は大阪市港区を訪問してきました。ここは、大阪市の西部臨海部に位置し、「港」区という名のとおりに大阪港があります。大阪港の港湾施設は、此花、港、大正、住之江の4区に広がっています。中でも港区の築港地区は、外国貿易に対応できる近代港湾として最も早く整備され、人や貨物が行き交う海陸交通の結節点として大阪経済の発展を支えてきました。

しかし、築港地区は在来船(荷物をそのまま積み込む船)による物流が中心であったため、1960年代後半以降に世界的に進められた海上コンテナ輸送(荷役のスピードアップと効率化が可能)へのシフトに対応しきれず、後に整備された南港(住之江区)のコンテナ埠頭に物流拠点が移っていきました。

過去30年間の運輸業従業者数の推移を見ると、港区の従業者数が減少している(-6825人:表1)一方で、南港のある住之江区は大きく伸びています(+6849人:表1)。また、運輸施設の敷地面積の推移を見ても同様の傾向が窺えます(表2)。ただ、2004年時点でも港区は運輸業で働く人の割合が24区中最大であり(19.3%)、同区は全体として見ると、物流拠点としての地位を保っています。機能低下した築港地区の岸壁は、1980年代半ばから再開発が進められ、同地区北側の天保山一帯(海岸通一丁目)の老朽化した倉庫群は撤去されました。その跡地に水族館(海遊館)、商業施設、美術館、ホテルなどが建設され、1990年に「天保山ハーバービレッジ」がオープンしました。現在、海遊館だけでも毎年200万人を超える観光客が訪れており(2004年は221万人)、観光集客の拠点となっています。

一方、築港地区の南側の岸壁(海岸通二丁目)には、1923年に建てられた赤レンガ倉庫が現在でも残っています。この倉庫は

戦後復興と高度成長を支えてきましたが、1999年に倉庫としての役目を終えました。現在、大阪市では、この赤レンガ倉庫を活用した若手芸術家育成プログラムを行っています(10月に一般公開予定)。また、赤レンガ倉庫に隣接する鉄骨造の倉庫も再生利用されレンタルギャラリーとなるなど、集客観光・文化産業の拠点として再生しつつあります。今後は、そこで育ったアー

ティストが生み出す芸術作品(例えば、デザイン、音楽、立体造形など)と既存産業の連携により、大阪経済が活発になることが期待されます。

大阪産業創造館までの時間距離

港区役所からの所要時間

実際に計測。地下鉄利用。電車の待ち時間を含む。

約30分

[表1] 運輸業従業者数の推移

上段:人数 下段:構成比(%)	2004年	1975年	1975年~2004年 変化
港区	7615 ①19.3	14440 ①28.1	-6825 -8.8
住之江区	11276 ②18.1	4427 ③9.3	6849 8.8
大正区	3656 ③12.5	5882 ②12.8	-2226 -0.3
此花区	4827 ④12.3	4013 ④9.1	814 3.2
鶴見区	3646 ⑤10.2	3014 ⑤8.9	632 1.3
大阪市全域	94851 4.6	115984 5.3	-21133 -0.7

資料:総務省「事業所・企業統計」より作成

注1:民営事業所が対象

注2:構成比は各区の全従業者数に占める割合

注3:○の中の数値は市内24区中の順位

[表2] 運輸施設の敷地面積の推移(100m²)

	2000年	1975年	1975年~2000年 変化
港区	9092	11658	-2566
住之江区	32626	4503	28123
大正区	6040	7124	-1084
此花区	10580	13253	-2673
鶴見区	5192	4716	476
大阪市全域	129684	140883	-11199

資料:計画調整局「土地利用現況調査」

注:2000年の数値には通信施設の面積を含む